



観察園の散策路

## 名古屋大学博物館友の会

# NUM 友の会ニュースレター

No. 69

2023 年新年号

### NUM 友の会会費の納入について

松本晃子

日頃は友の会の活動にご理解、ご支援をいただき有難うございます。

来年度の会費は、今号に同封します「払込票」をご使用いただき、お近くの郵便局からお振込みくださいますようお願いいたします。**締切は2月末です。**

なお、会費を納入いただいた方へは3月中に会員証を作成し、次回ニュースレター（4月上旬発送予定）に会員証を同封いたします。

既に来年度会費を納入いただいている方は、振込不要でございます。

コロナの流行がなかなか終息しない中、友の会の活動も制限されておりますが、来年度も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### 名古屋大学博物館と観察園の展示紹介

吉野奈津子

ただ今開催中の、岐阜大・名古屋大博物館コラボ展の見どころの一つとしてニワトリの剥製、タマゴ、骨格標本があります。ずらっと並ぶと壮観です。各大学の研究の紹介もしています。ぜひ実物を見にお越しください。



観察園展示室では3/6（月）～5/26（金）に、友の会写真サークル写真展を開催します。4/14（金）にはギャラリートークがあります。1年の成果はいかに？こちらまどうぞお楽しみに。

### ボタニカルアートサークル活動再開に向けて

若原静映

新型コロナウイルス感染症拡大により活動を休止していた「ボタニカルアートサークル」を2023年1月から再開します。

講師である東海林先生、メンバーの皆さんには、「感染しない・させない」ための安全確保、年間を通じた活動期間の保障など、再開のための見通しが立たず、長期間、ご心配、ご不便をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

活動再開にあたり、植物画が好きな方を新たにお迎えする機会を増やすこと、緊急事態下においても柔軟で持続的な活動が行えることを重点に考え、活動方針の見直し（4か月単位での活動期間、月1回の開催など）を行いました。この活動方針にご賛同くださいました皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

私は東海林先生と皆さんに再会し、メンバーの一人として、世話役として、共に植物画を描く機会をもてることがとても嬉しいです。

活動時には手指、使用前後の机の消毒、私語を控えるなど感染対策を行いながら、植物画を楽しんで描ける環境づくりに努めてまいります。



東海林富子先生の作品 ハナミズキ

## Artist Earth（地球は芸術家）19

### 甌穴（おうけつ）とパーカッション・マーク

足立 守

写真（1、2）の大きな凹みは河川の侵食によって川底や川床にできた壺状の穴で、甌穴と呼ばれています。穴の断面は円形や楕円形をしています。英語では、路面の穴ぼこを意味する pothole（ポットホール）です。

洪水の時には、普段は川底に沈んでいる石、つまり礫（れき）が激流によって運ばれます。そうした礫が運搬過程で回転しながら川の底や側面を削り、長い時間をかけて甌穴を作ります。甌穴は、初期段階の直径 30cm 以下の浅い凹みから、直径も深さも 3m 以上の大きなものまでいろいろです。

写真（1）は岐阜県下呂市田島の飛驒川に見られる大きな甌穴（直径約 3.5m、深さ 4m）で、濃飛流紋岩（のうひりゅうもんがん）の火道角礫岩（かどうかくれきがん）が円筒状にきれいに削られています。田島の火道角礫岩は、濃飛流紋岩の数少ない噴出口の岩石と考えられています。

写真（2）は岐阜県七宗町の飛水峡の甌穴（直径約 2m、深さ 4m）で、硬い層状チャートの岩盤にポッカリと穴があいています。飛水峡の甌穴の総数は約 800 で国の天然記念物に指定されています。

激流の力で岩盤を削る礫は、硬く“粘り”のある石です。“粘り”があるというのは、何回も岩盤に当たっても簡単には壊れない強度です。こうした石の代表格が飛驒川流域に広く分布している濃飛流紋岩の溶結凝灰岩（ようけつぎょうかいがん）です。木曽川水系の中流域に甌穴が多いのは、この溶結凝灰岩の存在と深く関係しています。

岩盤に石がぶつかった痕跡として、パーカッション・マーク（percussion mark）があります。丸みを帯びた硬い礫が岩盤や礫に衝突（打撃、percussion）することによってできる曲線状の傷跡（円弧の一部）です。モノが当たるという点で、音楽の打楽器もお医者さんの打診も同じくパーカッションです。

パーカッション・マークは、チャートのような硬くて緻密な石によく残っています。飛水峡や鵜沼のチャートに見られる甌穴には、所々にパーカッション・マークが残っています（写真 3）。大きなマークはより大きな礫が、小さなマークは小さな礫がぶつかった痕跡です。

パーカッション・マークのついた礫が海まで運ばれて来ると、海岸では礫同士の激しい衝突はなくなります。干満による波の作用で礫がこすれあうことで、パーカッション・マークは次第に消え、礫も小さくなっていきます。きれいなパーカッション・マークが残っている礫は、洪水時の激しい衝突を記録している河川堆積物である証拠です。



(1) 濃飛流紋岩中の甌穴（下呂市田島）



(2) 層状チャート中の甌穴（七宗町飛水峡）



(3) パーカッション・マーク（各務原市軍艦岩）

## 万葉の花 その7 サネカスラ

三矢保永

さね葛 <sup>かづら</sup> のちも逢わむと <sup>いめ</sup> 夢のみに <sup>うけ</sup> 祈誓ひわたりて

年は経につつ

柿本人麻呂 万葉集卷十一 2479

**大意** さね葛の蔓が延びていったあとで絡み合うように、いつか逢えますようにと、夢の中ばかりで祈り続けているうちに、いつのまにか年月は過ぎ去っていきます。

**注** さね葛は、枝蔓が絡み合いながら這い上がっていく様から、後に逢う、這う、暮る／来る（←蔓を繰る）などの枕詞になっています。集中に10首詠まれています。“さね”は実のことで、秋に熟した赤い実が際だつ姿が、名前の由来とされています。“祈誓い”は、神に祈って成否や吉凶を占うこと（広辞苑）。この歌によって、“さね葛”と“後に逢う”との関連性が、人口に膾炙（かいしゃ）されて、後に多くの同類歌が詠まれました。百人一首で有名な「名にし負はば逢坂山の さね葛…」など。

さね葛は雌雄同株と雌雄別株があり、前者は1本の本でも実を付けます。この写真（7/21 東山植物園正面ゲート横）は雄花で、2、3日で落下しますが、右後ろに写っている幼果は、雌花が受粉した後に、成育中です。円内写真は、同所で撮影（11/9）された実です。ここのさね葛は、雌雄同株のようです。

参照文献：伊藤博 万葉集釈注 集英社文庫ヘリテージシリーズ



撮影 写真サークル 森本一史

## 会員随想

### 山本山のおばあちゃん 今シーズンも！！

五十川 修

湖北に位置する山本山。ここにカムチャッカ半島から越冬のために毎年同じ一羽の雌のオオワシがやって来ます。（同一個体であることは、翼の模様などから湖北野鳥センターで確認されています。）

このオオワシは、「山本山のおばあちゃん」との愛称で呼ばれ、地元の人々や全国の野鳥ファンが毎年その飛来を心待ちにしています。推定年齢31歳以上で国内では最高齢のオオワシだと言われています。

今年もファンが見守る中、11月26日昼過ぎに飛来し、数分の間湖上を旋回したのち、山本山に入って行ったそうです。

私は、翌27日に湖北を訪れ、山本山の雑木林で羽を休める姿を確認しました。1メートルを超す体長、重厚な白と黒の翼、鋭い黄色の嘴と足など堂々としたその姿は、人間でいうと80歳を超えた“おばあちゃん”にはとても見えません。

オオワシは、翼を広げると2.5メートルにもなる猛禽類の頂点にあるタカの仲間です。しかし近年では、森林の伐採によりねぐらを失ったり、狩猟の銃弾を浴びた動物の捕食により鉛中毒になったり、環境破壊により餌が減少したりすることによってその数は激減しています。

こんな状況だからこそ、人々は一羽の「山本山のおばあちゃん」に期待や夢を込めて、毎年その飛来を待ち望むのでしょう。

私もこの“おばあちゃん”に力をもらっている一人です。



「山本山のおばあちゃん」

## 野外観察園 2022 冬

吉野奈津子

観察園も紅葉した葉がすっかり落ちて冬モードとなりました。あれだけあったツルマメも刈り取られて今はさっぱりきれいになっています。豆を取り出す作業を手伝いましたが、さやが3 cmほど、マメも5 mmくらいなので中々に大変なものでした。

以前パイナップルの種を播いたら芽が出たお話をしたと思いますが、まだ健在です。日当たりが良ければもっと育つのですが、小ぶりです。それでも現在は葉の両端の長さが1m近くになりました。今年の夏はこれとは別の古株に花が咲きました。私より前に観察園にいたので20年以上越しの花です。

表面の小さな盛り上がりから赤くてよじれたものが飛びだしていますが、これが咲き終わってしぼんだ花びらです。きっと紫色の花だったのだと思います。パイナップルは不思議な形をしています、たくさんのお花がぎゅっと集まって咲いたので、花の元にした果実もお互い合体してしまった・・・イメージ的にはそんな感じです。記念すべき開花だったのに撮りそびれてしまいました。今は握りこぶしくらいのかわいい実ができています。いつ収穫しようか迷い中。次回食レポートしたいと思います。



種から育てたパイナップル



パイナップルの花



パイナップルの実  
*Ananas comosus*  
(L.) Merr.  
パイナップル科



アオノクマタケラン *Alpinia intermedia* Gagnep.

ショウガ科



ラッカセイ *Arachis hypogaea* L. マメ科

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2022 年 12 月 19 日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X：052-789-5896 (博物館事務室)

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2 番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000 円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は 500 円 (次年度は 1000 円)

家族会員制度あり (同居の家族 1 名まで年会費を免除)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会  
他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキュウ) 店番 (089) 当座 0166807